

1 平成 27 年 3 月期 中間期の連結業績（平成 26 年 4 月 1 日～平成 26 年 9 月 30 日）

（百万円未満切捨て）

（1）連結経営成績

（%表示は対前年中間期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		中間純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
26 年 9 月中間期	42,685	13.1	1,669	12.0	1,743	12.2	866	△3.9
25 年 9 月中間期	37,727	31.8	1,490	190.7	1,554	144.9	901	156.5

（2）連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
26 年 9 月中間期	81,742	35,747	42.4
26 年 3 月期	87,555	35,171	39.0

（注） 連結子会社は 9 社

2 平成 27 年 3 月期の連結業績予想（平成 26 年 4 月 1 日～平成 27 年 3 月 31 日）

（%表示は対前期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
通 期	90,000	4.6	3,400	△17.3	3,100	△26.6	1,900	△26.5

※ 上記の予想は本資料の作成日現在において入手可能な情報に基づいて作成したものであり、実際の業績は、今後様々な要因によって予想数値と異なる場合があります。

3 当中間期における事業の概況および下期の見通し

当中間連結会計期間におけるわが国経済は、企業収益の改善に加え、民間設備投資も上向いており、全体として緩やかな回復基調が継続しているものの、消費増税による需要の反動減が長期化しており、先行きには一部不透明感も出てきております。

当社グループが属する建設業界におきましては、建設労働者の不足による工事遅延、着工遅れが発生し、採算が悪化する等の影響があるものの、復興事業を中心とした公共投資の増加や、首都圏の大型プロジェクトが進行する等、総じて需要は堅調に推移しました。

このような環境の下、当社グループでは、商品群のPR・営業活動の強化に取り組むとともに、採算性を重視した受注活動を行うことにより収益力の向上に注力してまいりました。

以上の結果、当中間連結会計期間の連結業績は、売上高 426 億 85 百万円（前年同期比 13.1%増）、営業利益 16 億 69 百万円（前年同期比 12%増）、経常利益 17 億 43 百万円（前年同期比 12.2%増）、中間純利益 8 億 66 百万円（前年同期比 3.9%減）となりました。

当下半期の見通しとしましては、公共投資、民間設備投資共に引き続き堅調に推移するものと想定しており、連結業績予想につきましては、売上高 900 億円、営業利益 34 億円、経常利益 31 億円、当期純利益 19 億円を見込んでおります。

以 上